

神戸層群から産出する植物化石の研究



自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

半田 久美子

神戸層群で木材化石や花粉化石の調査を行っています。神戸層群は新生代古第三紀、およそ3800万年前の地層で、美しい葉や実の化石が産出することで知られており、三田盆地からはザイサンアミノドンやサンダタンジュウといった哺乳類化石が見つかっています。

木材化石については樹種と産出層準の調査を行っており、これまでに200点以上を調べたところ、2種類の針葉樹と4種類の広葉樹があることが分かりました。直径が50cm以上の大型の木材の多くがパラフィラントキシロン属です。これは絶滅した広葉樹で、白亜紀から古第三紀にかけて世界中で見つかっていますが、どの植物に近縁なのかいまだに分かっていません。

花粉化石の調査では、三田盆地の吉川層からコナラ属を多く含む花粉化石群が産出しました。今後ほかの層準の調査を実施し、当時の植生がどのように変化したのか調べていきます。



加東市東条湖湖岸の凝灰岩と葉の化石



小野市東条川河床の木材化石



あいな里山公園に展示されていた木材化石
樹種はパラフィラントキシロン属



あいな里山公園の木材化石の木口面の拡大
年輪が不明瞭で道管が放射方向にならぶ